



あさひ野

あさひ野小学校だより
令和元年12月17日
第 9 号

〈育てたい子供像〉 夢いっぱいの子 知恵いっぱいの子 思いやりいっぱいの子

1 年を振り返り、自分をほめる

校長 水島 祐司

時代の大きな節目となった令和元年も、あと半月ほどで終わろうとしています。この時期になると、いろんな機会にこの1年を振り返ることがあると思います。その時に、どんな振り返り方をするかで、新しい年の迎え方が変わってくるように思います。

今年は稀代の名選手であったイチロー選手が引退した年でもありました。野球道を究めようとするその姿から、求道者とも哲学者とも称されたイチロー選手は多くの名言を残しています。その中で、私にとって特に印象的であったものがあります。「大きな成果を残した瞬間に、自分はそのことを忘れる」という言葉です。常に上を目指し、偉業をなし遂げても満足せず努力し結果を出し続けた、彼の偉大さと人間的な魅力を如実に表した言葉だと思えます。

常に向上心をもつことが大事であることは、十分に理解できます。しかし、過去の実績や努力を忘れ、前を向き続けることは私には到底できません。時折、過去を振り返り、「自分なりによく頑張ってきたなあ」と自己満足することで、「また新たな気持ちでチャレンジしよう」と自分を奮い立たせているのは、私だけでしょうか。

自分に甘すぎると言われるかもしれませんが、「自分で自分をほめる」とことは決して悪いことではないと思います。そうすることで、さらに上を目指すことの意味がしっかりと整理され、新たな力が生まれてくると私は信じています。

本校の子供たちには、1年を振り返るときに、自分に足りなかったことばかりを探し、自己嫌悪に陥るのではなく、一つでも自分の頑張りを見付け、自分をほめてやってほしいと考えています。

子供たちが生きていくこれからの時代は、先が見えにくい時代だといわれます。そんな時代をたくましく生き抜くためには、「自分で自分をほめ、力に変える」スタイルを身に付けることも必要だと思っています。

